

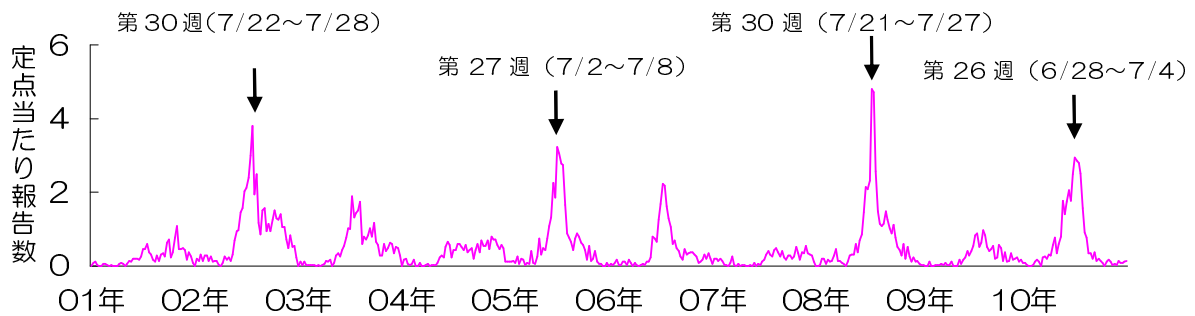
【保健環境研究センター5月だより ～定点把握対象疾患の話：手足口病について～】

手足口病は、主に乳幼児・小児に見られる疾患で、手のひら、足の裏、口の中の水疱性の発疹（水ぶくれのような発疹）を伴う軽いかぜ様の症状を示す主に夏季に流行する急性ウイルス感染症です（図）。一般に一週間程度で治癒し後遺症もありませんが、ごく稀に急性髄膜炎を併発することがあります。

手足口病は感染症法により「五類定点把握対象疾患」に定められており、県内35カ所（全国約3,000カ所）の小児科定点医療機関から毎週報告されています。

手足口病の原因となるウイルスは、コクサッキーウイルスA16やエンテロウイルス71などエンテロウイルス属の複数のウイルスがあり、原因となるウイルスの比率はシーズンごとに変化します。当センターでは、病原体定点医療機関から提供された検体についてウイルス分離、遺伝子検査を行っており、これまでの調査結果から、昨年県内で流行した手足口病の主因ウイルスはエンテロウイルス71であったことを確認しています（表）。

手足口病は、患者の飛沫、接触等により人から人へと経口感染します。治療は発熱や口内の発疹の痛み等に対する対症療法が中心となります。予防には手洗いやうがいの励行、タオル等の共用をしないことといった一般的な注意が必要です。



図．奈良県における定点当たり報告数の推移（2001-2010） 県感染症情報センター提供資料より作成

表．奈良県で手足口病患者検体から検出されたエンテロウイルス（2001-2010）

ウイルス	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
CA 2						1				
CA 4		1		2						1
CA 6	5		1		7					
CA 10			3							
CA 16	2	14	4		7			10		
CB 2		1								
CB 3		1								
CB 5				1						
E 13		1								
EV 71			3	1		5			1	13

CA：コクサッキーウイルスA群、CB：コクサッキーウイルスB群

E：エコーウイルス、EV71：エンテロウイルス71

（ウイルスチーム 米田 記）